幼稚園創設期における「遊戯」の導入に関する研究： 田中不二麿の報告文書を手がかりに

福原 昌恵

Background to the introduction of “yugi” during the period of kindergarten establishment in Japan

Masae Fukuhara

Abstract

The concept of “expressive play” was first introduced publicly at the Centennial World Exposition in the United States in 1876 as part of Froebel Kindergarten education, and was introduced to Japan as “yugi” by the Japanese Minister of Education, Fujimaro Tanaka, in his report of his experiences at the Exposition. “Yugi” was exhibited for the first time at the opening ceremony of a government kindergarten in 1877, during which children sang and moved their arms and legs, with spirit to represent a windmill. The term “yugi” had rarely been used before the Meiji Era (1868—1912), but with this occasion yugi became incorporated into the kindergarten curriculum in the early Meiji Era. The present study examined the awareness of “yugi” in kindergarten education during the history of Japan, starting with the report by Tanaka, who was a member of the Iwakura Mission that visited Europe and America in 1873, and was involved in the establishment of kindergartens. It was found that (1) in the early writings of Tanaka, the term “yugi” was used in a negative context indicating a “waste of time”. In the next stage (2), it was used in reports introducing non-deskwork activities conducted by public school pupils in the playground. Finally, (3) “yugi” was introduced not as simple exercise, but as an activity in which children moved their arms and legs while singing, with the intent of expressing some type of form.

**Key words : content of care and education, physical expression, singing, representing
(Japan J. Phys. Educ. Hlth. Sport Sci. 51: 635-647, September, 2006)**

キーワード：保育内容，身体表現，唱歌，演ずる

I はじめに

先行研究は，明治初頭の幼稚園教育に関する情

新潟大学教育人間科学部
〒950-2181 新潟県新潟市五十嵐2の町 8050
連絡先 福原昌恵

*Faculty of Education and Human Sciences, Niigata
University
8050, Ikarasi 2-no-cho, Niigata City 950-2181, Japan
Corresponding author masae@ed.niigata-u.ac.jp*

報の受容は主として米国経由であるとし、幼児教育観並びに情報受容元としての米国書及び翻訳文について議論を進めてきた。それらは幼稚園教育の主たる内容であった恩物¹⁾の導入と幼稚園そのものについての研究^{2) 3) 4) 5)}であり、また、明治初期の遊戯についての研究^{6) 7) 8) 9)}である。後者は日本の幼稚園教育との関係を十分に考察していない。詳細に原典を検討した湯川(2001)¹⁰⁾は、『日本幼稚園成立史の研究』の中で教育行政の立場から幼稚園創設に尽力した田中不二麿の幼児教育認識について一章を当てて論考している。しかし、ここにおいても幼稚園創設に向けた文脈で語り、「遊嬉」に関する外国書の特定に主眼を置いたもので、「遊戯」に焦点化していない。既に筆者は、官立幼稚園として創立された東京女子師範学校附属幼稚園において明治10年より創案実施された遊戯の実際及びその取り扱いについて明らかにした¹¹⁾。しかし、「遊戯」という語の用い方を検討し、どのように導入されたか、その経緯について明らかにしてはいなかった。

本稿は、海外視察後、文部理事として幼稚園教育の理解普及に努め、併せて幼稚園創設に力を注いだ田中不二麿が、明治初期の欧米諸国教育見聞以降、官立幼稚園開業に至る間に紹介した外国書文献、並びに米国博覧会々場仮設幼稚園の見学報告書を検討する。そして、幼稚園の教育内容としての「遊戯」が、唱歌を伴い、四肢精神を使い、何かになったつもり(representing)で演じる、を意味する「遊戯」として導入されるに至った過程を究明する。そのことにより、明治初期に如何なる運動遊戯が如何にして幼稚園教育の内容として価値づけられ、位置づいたかを明らかにする。史料として『教育雑誌』¹²⁾、田中不二麿『理事功程』¹³⁾、同『教育瑣談』¹⁴⁾、同『米国百年期博覧会教育報告』¹⁵⁾等を用い、併せて『子育ての書』¹⁶⁾、『嬉遊笑覧』¹⁷⁾、『守貞謾稿』¹⁸⁾、『日本<子どもの歴史>叢書』¹⁹⁾、『江戸期の童話研究』²⁰⁾、同「III 附録」²¹⁾、『図説 明治百年の児童史』²²⁾等を用いる。

II 近世日本の育児書類に見る「遊戯」

角川漢和辞典(1959)によれば、遊嬉とはおもしろく遊び楽しむことであり、遊戯は遊び戯れること及び幼稚園・小学校等で一定の方法で行う運動と娯楽を兼ねた遊びとあり、明治初期の小学校体操教材²³⁾に一部見出すことができる。しかし、この二者について上代編、室町編の時代別国語辞典²⁴⁾では見出すことができない。廣漢和辞典²⁵⁾によれば、「戯」「戲」「虚戈」は①たわむれる、②たわむれ、③わざを演ずる、歌舞演劇をする、④演技演劇をする等を表す。また、その字は形声を表し、戈+戯声からなり、戯は虚に通じ、むなしい事、つまり、むなしいほこ(戈)の意から、実戦でない軍における舞楽の意で、更にたわむれる意を表す。以上から、「遊戯」と「遊嬉」では意味上の隔たりがあるとわかる。また増田(1989)²⁶⁾によれば、「遊戯」は本来仏教語で空海が唐より招来した経典に見え、自由に振るまうことを意味し、上古の記紀に見える他、1880(明治13)年に文部省が翻訳した『Encyclopedia of Education』では「Diversion」を「遊戯」と訳したとある。

では明治維新前に遊戯という言葉が用いられなかったかといえ、稀にはあった。1831(天保2)年の「兒戯 全」²⁷⁾には、自序に「…わらべの遊びをしるせし冊^{フミ}はいまだ見ぬ…尾張童遊集と名付ぬ」とあり、「○乳兒に教ゆること」に続き「新年の遊戯」と書き記した後へ、「○續松、○雙六、○針打、○羽根つき」のように遊びの名称及び遊び方を記し、先行文献及びそれらへの記載を併せ紹介している。それは『嬉遊笑覧』の「卷六下 兒戯」、『守貞謾稿』も同様である。

子どもの遊びをどのように表記したかを調べると、多くは「手遊び」と総称したり、「わらへ遊び」と記していた。『江戸期の童話研究叢書』III 附録にあるように、「桃太郎」他の昔噺が「談話の内に自づから人倫の道を教へ、兼ねて志気を鼓舞する、童幼教化の資料として」²⁸⁾書かれたために、戦のない社会に移行すれば尚のこと、特に武

士階級がその階層構造を堅持するために幼時より文武両道を尊ぶ教育を施す必要が生じ、遊び、ないし遊戯という言葉が出現しにくい傾向があった。いずれも、「幼童」に対しては対語の如く「手遊び」と用い、その他は「わらわ遊び」が用いられている。

『世鏡抄』²⁹⁾中に「遊戯あまりすれば、心乱れて學文跡を忘れ、時々遊戯せざれば、心気起こりて、病出来するなり」等の記述が見える。この書については山住正己らが『子育ての書』中で室町時代に成ったと推測しており、「遊戯」の語が室町時代に用いられたことを示唆している。上杉鷹山『蒙幼訓』³⁰⁾書中にも、「朝夕遊戯の内にも何一つ教えに非ざるはこれ無く、後来成長の上（中略）未だ幼稚の遊戯のみと、人々も心を弛め油断も出易きものに候」と戒めている。また山鹿素行『武教小学』³¹⁾には、「およそ幼穉の間は（中略）戲遊には必ず弓矢竹馬の礼を以てし」とあり、また「戲遊言語は、必ず淫佚のことを以てすべからず」のように戲遊と表記する例もある。

しかし、同じ山鹿素行であっても『山家語類』³²⁾の父子道では「嬉戯」を複数用いている。これは、未だ嬰兒の間に家庭で行う子育てを論じたためである。また、中江藤樹は『鑑草』³³⁾で、「童部わざ、戯れ（ごと）」「戯れごと」「たわぶれ」と表記している。その他、稲葉迂斎『幼君補佐の心得』³⁴⁾では「遊び」「たわぶれあそぶ事」等と表記している。「小兒のたわぶれも歳をかんがえてゆるすべし」との文脈で語っており、「ことに禁すべきは歌舞戯狂言」とある。江戸期には、特に武士階級の男児に対して積極的に遊びを奨励する場合は、石合戦など勇壮なものが奨励された。そこには武士となるための鍛錬が含まれていたためである。

一方香月牛山『小兒必要養育草』³⁵⁾では、「戯れ」を用い、古今東西の書にある記述から教えを導き出している。「男の兒五、六歳のころ、同じ年ごろの類打ちよりて、殿事・馬事などという事をなして、或いは竹馬に鞭うつ戯れ、みな武をならわしめ、歩行を健やかにするの事なり。いずれも乳母、或いは付き従う所の者共、心にかけて、小

兒怪我をせぬように遊び戯れしむべきなり。」と遊びを奨励している。同様に、女の童に対する食炊ぐまねを炊事という戯れと記し、「小兒は土と水とを常にもてあそばしむれば、その熱鬱の気散じて病なし」と遊びの効用を述べ、積極的にこれを奨励するところが特徴的である。但し、「遊戯」等の語は見い出せない。

唐澤富太郎『図説 明治百年の児童史』²⁶⁾に掲げられた画図の題名は、「幼童遊び子をとろ子とろ（広重画）」、「子供遊お山の大将」「子供遊び端午のにぎわい」「小兒遊春の竹馬」「兒遊 棟上寿語録」等である。唐澤は明治期以前の児童観について、江戸中頃から次代の成人という考え方から教育的に考えるように変化し、玩具類も大人の生活への準備となる飯事用具等の模擬玩具が用意され、また絵本や双六などの社会生活上必要になる知識を提供する遊具が用意されるようになったとする。子どもが接する遊具・画図の表記に「遊戯」等とするには難解であり、大人が買い求めるにしても、子どもにとって難しい語句を用いたものは避けられたと考えられる。

同様に、『童遊び文化史』³⁶⁾に掲げる560種の双六中に「遊戯双六」という種類があり、子どもの遊びを辿りながら進めるものが12種整理されている。その12種を個々に見ると「新板子供遊廻寿古六（周重画 明治8）」「子供あそびすごろく（明治11年）」であり、明治期以前のは「新版福神遊飛廻双六（歌川豊国画）」「子宝遊寿雙六（よし藤画 慶応3）」などがあり、最も多い「道中双六」他、「戦争双六」「昔話双六」「出世双六」「相撲双六」等以外を、著者の半澤が「遊戯」と表記して括ったに過ぎない。

以上のように見てくると、明治期以前に「遊戯」という用語が全く用いられなかったのではないが、本来は仏教語であり、幼童、幼稚、わらべ、わらハに関して「遊戯」という用語を用いることは少なく、戯れ、手遊び、たわぶれあそび、童わざ、戯れごと、が多く用いられていた。

III 「遊戯」に対する文部省の 基本的な考え方

田中不二麿は明治4年10月に文部大丞に任命され、翌月には右大臣岩倉具視欧米派遣大使に文部理事官として随行し、列国の教育事務について講究し、1873（明治6）年3月に帰朝する。任務遂行にあたり田中は、「目撃する所に従ひ、瞭知の爲勉めて簿冊に詳記して後の考索に便すべき事。書籍、器具須要の物を購得し、翻刻模造に供すべき事。」³⁷⁾と、強い使命感をもって臨んだ。田中が帰朝して半年後の1873（明治6）年10月4日に発行された『文部省報告』³⁸⁾には、幼稚園教育に関する基本的な考えが記されており、そこに「遊戯」の文字を見出すことができる。それは以下のようなものである。

一縷ノ絲モ其白キノ初メハ以テ黄ニスヘク紅ニスヘシ人ノ初メテ生ルヤ亦此ノ如シ其オタリ愚タル其善ヲナシ悪ヲナス皆先入ノ習ヒニ本ツカサルハナシ世ノ父母タルモノ反テ之ヲ思ハス徒ラニ姑息ノ愛撫ニ溺レ遊戯其好ミニ任カセ嗜欲其求メニ^{ナラヒ}年齢已ニ長シ昏愚身ヲ誤ルニ至リテ^{ニフ}遽カニ之ヲ教誨スルトモ既ニ黄ナルモノ再ヒ紅ナラス於是臍ヲ^{ホソ}嚙トモ^{カム}何及バン頃^{コノ}口當省ニ於テ欧米列國ノ先案ヲ模擬シ各種ノ繪畫玩器等ヲ造リ遍ク之ヲ播布シ以テ家庭ノ訓ニ供ス幼孩ヲ育スルモノ敢テ此諸品ヲ輕視セス努メテ之カ意ヲ用キ平常坐臥ノ間漸々誘導シテ怠ラサルトキハ遂ニ其子ノ慣習トス一ハ以テ訓戒ニ充ツルニ足り一ハ以テ智恵ヲ發スルニ足り其徳性才質自ラ善良ニ帰着シ他日学ニ就クニ至リ更ニ成業ヲ速ニセン世ノ父母タルモノ夫レ宜シク茲ニ注意スヘシ

1873（明治6）年4月に大木喬任が文部卿辞任となった後、田中不二麿が文部省々務を管理していた。文部省は欧米列国の教育を模範にして小学校就学以前の乳幼児に教育を施すことにし、上記資料にあるように各種教育用絵画、玩器を広く頒布しようとした。父母に対してはこれらを輕視せ

ず、日常の家庭生活において誘導的に用い、小学校就学の準備にしよう注意を促している。上掲『文部省報告』は児童の好みに任せた「遊戯」によって無為に時間を費やし、教育の機会を逸する事を憂慮したのである。また、初めて用いられた教育用絵画³⁹⁾中の「幼童繪解運動養生論説示圖」にも「遊戯」とあり、当時、「遊戯」は単なる「あそび」とみなされていたことをうかがわせる。

『文部省報告』に上記の文が掲載される背景には、田中の働きかけがあったものと推測しうる。すなわち田中は、これに先立つ同年9月24日に、教育用絵画及び玩器に関し、太政大臣三条實美に宛て次ぎの上申書を書いているのである。

童蒙教訓図⁴⁰⁾ 四十五種并キンドルガーデン中筆学捷徑綴字一步二種此度製調ニ付及具進候右ハ嚮ニ欧米諸國ノ巡行周覽スルニ教育書器至精ニシテ猶其心未タ学ニ就ザル幼穉ニ用キ玩弄ノ具及勸戒誘導ノ画図ヲ製シ之ヲ幼穉学校ニ用キ亦之ヲ家庭ノ訓ニ供ス其力ヲ教養ノ道ニ用キル遺ス所ナシト謂ヘシ因テ数種ヲ齎シ帰朝ノ後模擬刊行シ幼穉ノ教導ヲ裨補シ小学就業ノ津梁ト為ントス依テ調成ノ部取纏メ及具進候猶製造中ノ分ハ追テ可致進呈候此段申上候也

明治六年九月二十四日 文部省三等出仕

正五位田中不二麿⁴¹⁾

太政大臣三条實美殿

以上のように田中は、欧米諸国視察の際に意に止めた小学校教育への橋渡しとなる教訓図等を幼稚学校に用いるために模擬刊行し、続刻したものも揃えて大臣に進呈⁴²⁾した。

田中はこれら欧米の教育諸器具及び自ら見聞した教育方法を以て、小学校就学以前の時期から準備教育を行うことが重要であるとの考えを固めつつあった。即ち玩弄具及び勸戒誘導の画図を頒布して予め幼童の親をも啓蒙すれば、「時間を無為に過ごす」事にならないと確信し、『文部省報告』に一文を掲載したのである。では、これ以前には田中はどの程度の遊戯認識をもっていたのであろうか。以下、まず既に田中が刊行していた『理事

功程』から探っていく。

1. 『理事功程』に見る幼児教育方法と「遊戯」

岩倉使節団の一員として1871（明治4）年11月より欧米を視察した田中不二麿は、帰国した明治6年以降、列国の教育制度及び経済的扶助状況を『理事功程』⁴³⁾に著している。田中は明治8年1月の同書巻九の「独乙國ノ二」に「ケルテン、キンデル、ベワイル、アンスタルテン 幼児養育所」を以下のように紹介している。

市邑ニ於テ仁恵社ヨリ之ヲ設ク近年其数大ニ増加セリ斯クノ如キモノハ公学校ト匹敵スル者ニアラス只公学校ノ不足ヲ補フノミ郷里ニ於テハ一家盡ク野外ニ出テ耕作シ且成長セル童子アルモ学校ニ赴キテ家ニ幼児ヲ撫視スル者ナキヲ患ヒ慈愛アル人私宅ニ於テ学齡未滿ノ幼児ヲ招集シ厚ク之ヲ眷愛保護ス即幼児養育所ナリ両親タル者毎朝業事ニ出ル時其幼児ヲ此處ニ託シ置キ業ヲ終ヘシ後再び幼児ヲ伴フテ帰ル養育所ニ於テハ幼児ヲ教ヘ之ヲ保護シ且コレヲ慰ムルニ歌舞遊嬉等ヲ以テス但シ幼児ヲ保護スル者ハ婦人等ニシテ幼児ヲ愛スルノ深キヨリ遍ク之ヲ愛護セシ為ニ好テ之ニ盡カスト云フ

すなわち田中は託児所的性格を持つドイツの幼児養育所について記し、一家悉く耕作に従事し顧みられない幼児を集め、慈愛ある婦人等が歌舞遊嬉をもって保護する所であるとしている。続けて幼稚園に触れ、以下のように述べている。

フレーベル （ママ） 人名 ノ遊園ハ貧窶ナル童 幼児ヲ教育スル為ノ幼稚園ノ上等ナル者ニシテ其教方懇切ニシテ上等ナル人民ノ幼児ヲ教フル所ナリ此類ノ学校ハ独乙中五六十個ニ過キス亭漏生國ニ於テ近來政教ニ係リテ混雜ヲ生セシヲ以テ政庁ヨリ此類ノ学校ヲ設クルコトヲ禁シタリ然レトモ幼稚園ヲ禁止セシニアラズ（後略）

田中は、二種の施設のうち、幼児養育所のことを、両親とも就業する幼児を歌舞遊嬉を以て保護する所であると紹介し、一方フレーベルの遊園は

童幼を教育する幼稚園の上等のもので、上等の人民の幼児を懇切に教える所であり、ドイツに50—60園あるとして、幼児養育所と区別している。しかし、以上の記述の紹介に留まる。

また注目すべきは、明治8年9月刊『理事功程』巻十五「瑞士國ノ三」の後、田中は「噯國」⁴⁴⁾首府公学校の生徒規則中の「乙 受業時間」及び「丙 放課時間規則」を紹介し、そこで「遊戯」について記載している点である。前者は「第一 生徒受業ノ間ハ精神ヲ其学業上ニ注キ雑談飲食其他無益ノ遊戯ヲ為スヲ許サス且正ク其席ニ坐シ（後略）」、後者は「第一 放課時刻ハ（中略）二行ニ列シテ遊戯場ニ趣クヘシ」^{ママ}、「第二 放課時間ハ（中略）病身或ハ一時ノ不快等ニテ遊戯ニ堪ヘサル者ハ教官ノ許可ヲ得テ教場内ニ留リ自己ノ席ニ在テ休憩スルヲ得ベシ但シ此放課時間ハ監守者アリテ教場ヲ看護ス」と、学校授業時間内の学業以外の無益な活動、及び放課後の比較的自由的活動に「遊戯」の文字を充てている。

田中は『理事功程』巻九でドイツにおける小学校就学以前の幼児養育所と幼稚園を比較し、幼稚園をより上等の人民のための上等の遊園で懇切に指導される所と紹介し、幼児養育所では歌舞遊嬉を用いて保護されると記して両者を峻別した。そして巻十五 デンマークでは、公学校規則中の授業時間以外の活動に「遊戯」を充て、遊戯を行う場所には「遊戯場」の文字を充て、遊嬉とは区別している。この時点で田中は「無為に時間を費やす」結果悔悟するものとしての「遊戯」から一歩進め、学校において授業中に無益な遊戯を許さずとの用い方とともに、学業以外で看守者が教場を看護する時間に、病気以外の者は二列に並んで遊戯場へ赴き、そこで活動することに関心を示していた。その座業以外の活動に「遊戯」を充てた。

2. 東京女子師範学校内への幼稚園開設に関わる「遊戯」

田中は明治8年7月7日、「幼稚園開設之儀伺」⁴⁵⁾を上申した。しかし、開設費用の概算が高額⁴⁶⁾な為、教育予算逼迫を理由に斥けられる気配となる。その時点で田中は、文部省の余剰金を活用す

る目的で「学校資本金之儀ニ付具陳」⁴⁷⁾する。結局、幼稚園開設は見送りとなるが、同8月に再び「幼稚園開設之儀際應伺」を上申する中で幼稚園創設を喫緊の要と記し、同9月13日、大臣の朱書文により聞き届けられる⁴⁸⁾。田中はこの再応伺の文書中に「遊戯」を用いた。

学第千五百九十四号 幼稚園開設之儀再応伺⁴⁹⁾

本年七月七日附ヲ以幼稚園開設之儀相伺候處
同八月二日附ヲ以伺之儀難聞届候段御指令相成
ル處右幼稚園之儀ハ児輩ノ為メ良教師ヲシテ専
ラ扶育誘導セシメ遊戯中不知々ニ就学ノ階梯ニ
就カシムルモノニシテ教育ノ基礎全ク茲ニ立ツ
ヘク逐次学事拡張之際先ツ於當省実地此ノ雛形
ヲ設ケ漸々其方法ニ因ラシメンコトヲ欲スル旨
趣ニシテ即今不可缺之急務速ニ施設相成度尤女
子師範学校内建家兼用致シ當分之内費用等該校
補助金ヲ以辨償可致候條開設ノ儀御尤可相成度
此段更ニ相伺候也

明治八年八月二十五日 文部大輔田中不二磨
太政大臣三条實美殿

この文中注目すべきは、幼稚園を「遊戯中不知々ニ就学ノ階梯ニ就カシム」ものとして意義づけ、それをもって「教育ノ基礎全ク茲ニ立ツ」とし、女子師範学校の建家の兼用と同校補助金を以て経済的問題を克服する事を進言し、開設を迫ったことである。同8年11月の東京女子師範学校開業式⁵⁰⁾の祝詞では、「女子ハ教育ノ母ナリ」とし「女教ノ喫緊切要」を説いた。これは「女子教育…向來幼稚を撫育するの任あればなり。(中略)女學は幼稚教育の基礎にして(中略)遂に幼稚の教育を善美に」⁵¹⁾すると述べたことと同趣旨である。田中の内心においては、幼稚園教育と女子の教育は不可分に接続している。それは幼稚園開設に関して「海外各国に於いては私設を主とし、殊に米国の如きは富豪の徒之が為に資を投じて、規模の完美なるもの甚だ多く、予は其实況を視察して、頗る有益なるを認めたり。(中略)予は積極論者として、一は幼稚園の模範を公示し、一は教育の発展を企圖し、又女子師範学校生徒の実験に

資せんと欲して、遂に其開設を断行し(後略)」⁵²⁾たと述べていることから明らかである。片方を欠いても不十分で、両者を開設することによる相乗的効果を、田中は確信していたと思われる。

そして明治9年4月以降『文部省雑誌』は『教育雑誌』と改称される。文部大輔田中不二磨が同13年に司法卿に転任するまでの間、『教育雑誌』中に幼稚園関連米国文献が多数掲載され、それら東京女子師範学校摂理中村正直らによる訳稿は「遊戯」が多用されるように変化している⁵³⁾。

3. 『米国百年期博覧会教育報告』⁵⁴⁾にみる「遊戯」

米国フィラデルフィアにて開催された建国百年期博覧会の会期は1876(明治9)年4月19日より5ヶ月間であり、田中は明治9年4月に横浜港を発ち、この博覧会に赴く。帰国後の明治10年1月、文部省から『教育報告』を四巻刊行する。その巻二には「幼稚園」と題した論文が、「フローベル氏法幼稚園」、「米国法幼稚園」、及び「幼稚園略論」の構成で掲載されている⁵⁵⁾。

「フローベル氏法幼稚園」のなかで田中は、会場内の大建築「女工館」に隣接する、木造二室内部に自然の景色を装飾したフレイベル式幼稚園を紹介している。この園は週三日開園し、3名の女教師のうち2名は幼稚園師範学校生徒である。4、5歳の幼児18名を実際に教授し、「児女ノ教師ニ従ヒ或ハ唱歌シ或ハ體操スル形状」を幼稚園の教法を知らせるために観客に公開した。この様子を「頗る目ニ新タナルヲ以テ観客常ニ群ヲ為セリ」と紹介し、臨場感溢れる筆致で以下のように記述する。

此幼稚園ハフローベル^(ママ)氏 日耳曼人ニシテ幼稚園發明者ナリ教授法ヲ用ヒ小兒ニ教フルニ唱歌、體操、稿物ノ編ミ方、木片ヲ以テ家屋ノ形ヲ造ル等ノ事ヲ以テ小兒ハ一事ニ従ハシムルコト久シケレハ倦ミ易キヲ以テ一事ヲ学ハシムルニ半時ヲ限リトシ晴天ノ日ハ屢々戶外ニ於テ遊戯セシム其出入毎ニ教師必ス小兒ト共ニ又タ共ニ唱歌ス譬ハ戶外ニ出ントスル時ハ余輩

出テ新鮮ノ空氣ニ浴シ共ニ樂テ遊ハントスル等ノ歌ヲ唱ヘ列ヲ正シテ戸ヲ出ツ又體操ノ時ニ方ツテ啻ニ四肢ヲ運動スルノミニアラス體操ニ杜鵑、風車等ノ名アリ杜鵑ノ體操ヲ為サントスルトキハ先ツ小兒ヲ圓形ニ列セシメ四人ヲ取テ室ノ四隅ニ立シメ之ヲ杜鵑ト假定シ然シテ後四人ノ小兒杜鵑々々ト叫ビ圓形ノ小兒歌テ、來レ汝余輩ト遊ヘト云フ句ニ至リ四人ノ小兒圓形ノ小兒ニ結合シテ體操唱歌ス今杜鵑ノ歌ノ大意ヲ訳サンニ

杜鵑々々、杜鵑小兒ヲ呼フ、余輩モ亦杜鵑ヲ呼ヘ、杜鵑汝友無シ、余輩ト遊フコトヲ欲スルカ、杜鵑ヨ、汝カ余輩ヲ尋フノ厚意ヲ空フセス、來レ杜鵑、來レ杜鵑、余輩ト遊ヘ、余輩ト樂ヲ同ウセヨ

右ニ記シタルフローベル^(ママ)氏幼稚園教授法ニ從ヘハ小兒ヲ教フルニ書物ヲ用フルコト無シ之四五歳ノ小兒ハ神經ヲ運用スルノ力ニ乏シケレハ今ニシテ之ヲ勞セシムレハ他日精神ノ暢達ヲ妨クルノ患アルヲ以テナリ

以上のように、幼児は飽きやすい為に各30分を限度に、晴天日に度々戸外で教師と共に楽しむ遊戯する。田中は、連日観客が絶えないフレーベル式幼稚園教授法の実際を目の当たりにし、前述したように詳細に記述し伝えるべきものと判断した。また体操について田中は、単に四肢を運動するのではないとして、ここでは「杜鵑」の体操演技と歌詞とを具体的に紹介している。

この歌は桑田信五が明治11年6月、『幼稚園』下巻「音楽の体操の事⁵⁶⁾」に「体操を助くるために適宜の歌を添ふべしこの体操ハ稚児に適する者にして稚児の自発明する所なり而して実地の教育に従事する者ハ此発明せる体操を集めて適宜の歌を作り音楽に合すべし」と紹介した歌の第5「杜鵑ノ歌」である。そしてこの「杜鵑ノ歌」は、ロングの幼稚園手引き書⁵⁷⁾中に掲載されている。

One-fourth of the children hide themselves, representing cuckoos, and sing “Cuckoo, cuckoo.” The rest promenade singing the song,

and representing the companions of the cuckoos seeking them. As the words indicate, they find each other; when they are glad and promenade together, singing the chorus.である。

4人にひとりの子どもが隠れカッコーになつたつもりで「カッコー、カッコー」と歌う。(円)列になつたカッコー以外の子どもは歌を歌い、カッコーの仲間になつたつもりで先のカッコーの子ども達を探す。歌詞のように互いに探しあてて喜び合い、列に加わり全員で歌う(傍点筆者)と解釈できる。

田中は、以上のように幼稚園の教育方法を具体的に紹介し、精神が伸び伸びと育つとした。田中にとってフレーベル式幼稚園の実地指導、即ち若い女性教師が多くの外国人見学者を前に堂々と指導し、幼児もカッコーになつたつもりで歌い遊戯する、この「遊戯」こそ近代教育の象徴と映ったに違いない。明治10年1月の時点で田中は「杜鵑」を「唱歌を伴う体操」、しかし単に四肢を運動する体操ではないと述べている。

続いて田中は、「米国法幼稚園」の文中、会場北隣りのイー、エム、コーが私費で建設した更に小さい小屋を紹介する。既に今百年期博覧會に日本も出品した玩具、すなわち恩物展示及びその実地操作をしていたのである。田中は恩物指導を「幼稚園生徒ニ精神ヲ練磨スル教科ヲ授クル」ように感じつつも、コーが教育部第一等賞を獲得していることから、「敢テ小兒ノ精神ヲ疲労セシムルノ患無シ」「害無シ」と述べ⁵⁸⁾、簡略に紹介した。

「幼稚園略論」⁵⁹⁾では、米国における公立幼稚園セントルイス^{セントルイス}ボストン^{ボストン}は聖路易府及び波士敦府のみで、他は私立であり、効果は未だ判然としないが、教法は母よりも善良で、積極的に受容すべきと記している。

設置日猶浅キヲ以テ未タ其成跡ヲ詳カニスルヲ得ス然レトモ之ヲ主張スル者ノ説ニ曰ク夫レ近代學術ノ大イニ進歩セルハ決シテ偶然ニ非ス其源ヲ探リ数十百年ノ間研究琢磨シ始テ今日ノ結果ヲ致シタルコト猶種子ヲ下スノ時ヨリ培養

ニ心ヲ用ヒ然ル後始テ美果ヲ得タルカ如シ人ノ教育ニ於ケル幼時ヨリ培養ニ意ヲ用ヒサレハ亦何ソ美果ヲ獲ルコトヲ得ン見ヨヤ世ノ大人君子タル者ハ猶ホ果樹ノ萌芽ニ於ケルカ如ク彼モ一時ハ小兒タリシニ非ラスヤ又世ニ英名ヲ鳴ラセシ人ハ其母ノ善良ナルニ因ラスヤ若シ幼稚園ノ教法ハ母ノ教育ヨリモ一層善良ナルモノトセハ幼稚園ノ今日ニ必要ナル疑ヒ無シ

米国における幼稚園推進者は先述の公立幼稚園学監ハリス氏及び学監ヒルブリック氏並びにピーボデー夫人であると記している。そのハリス氏から、幼稚園の設立後数年にして望外の成果を上げたために同府公学校の教師が皆公立幼稚園の設立を欲するほど小学校進学後の幼稚園修了生は学業進歩が著しく行状も正しかった。ために、公学費用を減少させる一助となったと聞く。またヒルブリック氏からはボストンでは在園児が3歳より7歳であるが、書籍は用いず習字はせず、腕力、精神力及び五官の作用を活発化させると聞く。故に「小兒ノ遊戯ニ順序アリテ四肢精神ヲ使用シ手工ヲ教ヘ事物ヲ工夫スルノ才能ヲ舒ヘ注目力ヲ敏捷ナラシム幼稚園ノ功用又多カラスヤ」と、方法を効用とともに述べた。すなわち、田中は幼児の「遊戯」には順序があり両手足とともに精神を使用し、手工を教え、事物を工夫表現する能力を拡張、着眼力を的確にする、として効用を積極的に紹介した。田中が紹介した「遊戯」は、先行研究で主として採り上げた恩物操作にとどまらず、四肢並びに精神作用を併せ使う運動遊戯⁶⁰⁾であり、これによって前述の杜鵑等の事物表現をも工夫し拡張、能力の伸長を図るものとし、また四肢及び精神を伴う運動的「遊戯」を「恩物」手工と並び重み付けた。そして田中は、「幼稚園略論」の最後を以下のように締めくくった。

ゼルマニー

日耳曼國幼稚園首唱家ノ説ク所三項アリ其一ハ社会悪風ノ伝染ヲ避クルニ在リ其二ハ適

当ノ玩具ヲ与ヘテ小兒ノ事物ヲ製作スル力ヲ増スニ在リ其三ハ婦人ニ小兒ヲ教養スルノ法ヲ練習セシムルニ在リ第一項小兒稍ヤ成長シ少シ

ク事物ヲ鮮スルノ時ニ方リ未タ善悪ヲ区別スル能ハスシテ無学ナル乳母ノ手ニ成長セシムレハ自然社会ノ悪風ニ伝染シ道德ヲ損スルノ恐アリ第二項玩具ヲ毀チ其製作ノ法ヲ知ラント欲スルハ小兒ノ天性ナリ幼稚園ニテハ小兒ニ多少ノ精神ヲ費シ諸物形ヲ模作セシムル為メ種々ノ玩具ヲ備ヘ之カ為メ事物ヲ製作スルノ智ヲ増ス少ナシトセス第三項婦女、人ノ妻トナリテ子ヲ生メトモ教養ノ法ヲ知ラサルモノ多シ然ルニ幼稚園ニ於テ小兒ヲ教養セシムレハ他日真成ノ母タルヲ得ヘシ故ニ幼稚園ハ緊要ナリト謂フ可シ

以上の文脈から遊戯による教育の必要性を強調した。すなわち、ドイツの幼稚園推進者はまず、幼児を社会の悪風から守り、幼児に玩具を与えて製作能力をつけ、大人の女性に子の教養法を練習させる事を説いた、と記した。幼い子の教育を乳母に委ねてはならない。子どもが玩具を壊しその製作法を知りたいと望む時、幼稚園では種々玩具を備え「諸物形」を模作させるので製作力を増すことができる。女性が妻となり子を成す際、子の教養法を知らぬ者が多いのであるから、幼稚園を設け、幼児教養法を学習させれば真の母親を創ることができる、とした。即ち女子の教育は重要であり、併せて幼稚園設置は緊要であると締めくくっている。幼稚園の教育方法としての「遊戯」の提唱は、田中がその実況を見聞し、頗る有益であると認識したからに他ならない。

田中の上記米国百年期博覧會教育報告の刊行より遡る、1876（明治9）年11月14日に東京女子師範学校附属幼稚園は開設された。同11月16日に同園開園式を行ったが、そのとき田中は同博覧會視察を終えて帰国の途にあり、横浜港着は翌1877（明治10）年1月であった。田中帰国後の同年11月27日、同校附属幼稚園は田中文部大輔出席の下、開業式を執り行った⁶¹⁾。開講室では「形體積ミ方」、「博物ノ話」、「球ノ遊ヒ」、「縫畫及體操」、「織紙」、及び「鎖ノ連接」等の恩物操作が、また遊嬉場では「遊嬉ノ状」が午前中に披露された。昼食休憩後、再び遊嬉場にて文部大輔の演述並びに記念撮影があり、その後皇太后、皇后の祝

辞、摂理による答辞、保姆らの祝辞と続いた。そして最後に、保姆の箏、ピアノ合奏にあわせ、園児による唱歌、及び遊戯歌「風車」が演じられたのであった。

IV おわりに

田中不二麿は1871（明治4）年10月、岩倉使節団に文部理事官として随行した。欧州列国の教育事情を見聞し、帰朝後、1873（明治6）年4月より文部省省務を管轄し、9月には太政大臣三条實美に宛て、購入製調した教育玩具、教訓図を未就学幼稚に用い、日本の家庭教育に提供するために刊行物を頒布することを上申した。また幼稚の教導を補い、小学校就学の手引きにするために一式を調製して大臣に具進し、幼稚園を早期に創設することを訴えたのである。

そして同年末から、列国教育事務について解説した『理事功程』15巻を順次刊行した。1873（明治6）年の『文部省報告』では、従来用いられることの少なかった「遊戯」という語を、無為に時間を費やすという意味の否定的な文脈で用いた。1875（明治8）年1月刊の『理事功程』巻九ではドイツの事例に基づき託児所的性格の幼児養育所と幼稚園を比較し、前者を歌舞遊嬉により幼児を保護するもの、後者はより上等の親の幼児を保育するものとして区別した。そして同年9月刊の同書巻十五において、デンマーク公学校生徒規則を記し、放課時間に病気以外の生徒が二列をなして遊戯場に移動し、休憩ではない、座業以外の活動を行うことに「遊戯」という語を充てた。

『理事功程』の執筆と並行して、田中は1875（明治8）年7月、幼稚園開設の伺い書を提出した。小学校就学の階梯とすべき幼稚園創設を遅らせては、教育の本旨にもとると考えたのである。この最初の伺いは「国費多端ノ際急ラハ急中ノ不急」として却下されるが、教育事務進捗に通じていた田中は、断念することなく「幼稚園開設再応伺」を提出した。その中で田中は、「遊戯中不知々ニ就学ノ階梯に就カシム」という文脈で「遊戯」という語を用いた。加えて田中は、文部省の余剰金

の活用について述べ、その際、東京女子師範学校の建築物を利用すること、同校補助金を充当すること、遊戯を実施して小学校入学のための準備教育とすることを提案した。「遊戯」はこのような新たな概念のもとに、幼稚園開設に伴って位置づけられたのである。そして1877（明治10）年11月、文部大輔田中出席のもと、同校附属幼稚園の開業式が催され、最後に園児による遊戯歌「風車」が演じられた。田中が見聞した「杜鵑」の模倣ではなく、幼稚園幹事が直訳し、内容を保姆らが整え、宮内庁式部寮雅楽課に依頼して調整した曲「風車」を、幼児が歌いながら風車になったつもりで踊った。この我が国幼稚園の「遊戯」は西洋の教育の単なる模倣ではなく、「改善」⁶²⁾であろう。官立幼稚園の教育は緒についたばかりであったが、この時田中の脳裡をよぎるものがあつたとすれば、米国博覧会々場において観客が絶えないと自ら詳細に紹介した、幼児による遊戯、すなわち歌を伴い四肢の運動を用い、カッコーになったつもりで演じられた「杜鵑」の遊戯であり、そして彼等を臆することなく指導した女性教師並びに米人学監の幼稚園に関する解説であつたのではなかろうか。

謝 辞

本研究をまとめるに際しましては、筑波大学体育科学系体育史研究室阿部生雄教授より懇切な御指導を戴きました。記して感謝申し上げます。

注

- 1) 恩物とは幼稚園教育の始祖フレーベルが創案した教育玩具及び教材20種につけた名称（Gabe）の翻訳である。
- 2) 岡田正章（1963.3）明治初期の幼稚園論についての研究、東京都立大学人文学報、31：69-90。岡田は田中不二麿の「教育瑣談」により東京女子師範学校附属幼稚園開設の範を米国に求めたとし、岩倉使節として欧米視察後外国幼稚園を紹介した田中の見聞記、近藤真琴の育幼院（保育所）見聞記、ハーバード大卒目賀田種太郎の見聞記を考察、『文部省雑誌』への抄訳、当時購入幼稚園書を一覧にした。

- 3) 海後宗臣 (1980) 日米文化交渉史3:教育編. 原書房:東京, pp. 399-409. 女子師範附属幼稚園で
の方法が, 米国経由でフレーベル思想と共に日本の
保育草創期に移入し模範とされたとする. A.L.
ハウの業績をまとめている.
- 4) 穴戸健夫 (1983. 12) 明治初期における外国から
の幼児保育思想の導入についての一考察. 愛知県
立大学文学部論集 (児童教育学科編), 33: 15-31.
学制の幼稚小学規定と幼稚園との相違, 米国幼稚
園紹介文「幼稚園ノ説」に見る集団保育思想及び
恩物による開智, 母親教育の重要性を読み解いた.
- 5) 小川澄江 (1983. 1) 中村正直の幼稚園教育観—中
村正直におけるアドルフ=ドゥアイの幼稚園教育
観の受容—. 教育学研究集録, 6: 19-29. 1848年
ドイツ三月革命後のA.ドゥアイ渡米と, ドイツ人
子弟の為の幼稚園創始を記す. 彼の「幼稚園」を
女子師範摂理中村は「ドゥアイ氏幼稚園論ノ概旨」
として『教育雑誌』に, 同附属幼稚園監事関信三
が全訳出版する以前に抄訳したと評す. 中村の幼
稚園観はドゥアイのフレーベル解釈即ち基本理念
と一致し, 魅力的な遊戯室, 園庭等交際場の, 教
師養成と共に玩物・遊戯による喜びを重要とした.
小川は中村が啓蒙普及に貢献したとする一方, 中
村が幼児に感覚力を得させる一項を欠落させた点
を指摘する.
- 6) 名須川知子 (2004) 唱歌遊戯作品における身体表
現の変遷. 風間書房:東京. 明治期の唱歌遊戯に
関わる翻訳書の作品類を紹介し, 昭和中期に至る
身体表現の変遷を考察した.
- 7) 白川蓉子 (1976. 3) 明治初期における『唱歌』と
体操科『遊戯』の特質. 教育学研究, 42 (1): 31-
40. フレーベル幼稚園の運動遊戯 (Bewe-
gungsspiele) 方法を桑田親五『幼稚園』中「音楽
遊戯」及びW. Lange著, 茅野蕭々訳「母の歌と
愛撫の歌」から読み解き, 「保育唱歌集」「小学唱
歌集」の出典を特定した. 小学校体操科遊戯とし
て主要遊戯書の特質を探り, カイヨワ理論に照ら
し子どもの遊び文化として伝承されてきた童遊
び・うたと異質な点, 技術偏重となった点を挙げ,
為に体操科遊戯が活気を失ったとした. 小学校体
操科の視座から論じた.
- 8) 高橋晴子・吉田育子・木村吉次 (1976) 伊沢修二
の『嬉戯』に関する一考察, 中京体育研究所紀要,
16 (1): 67-80. 下等小学における伊澤の「嬉戯」
実践を後の幼稚園遊戯の先駆とした.
- 9) 勝山吉章 (1986) フレーベルの運動遊戯に関する
一考察—集団遊戯による人間形成論を中心にし
て—. 名古屋大学教育学部紀要 (教育学科), 33:
79-89. 運動遊戯の特徴・課題の詳述.
- 10) 湯川香津美 (2001) 日本幼稚園成立史の研究.
風間書房:東京. 日本における幼稚園成立を1900
年頃とし, それ以前の幼児保護・教育から, 官立
幼稚園創設経緯並びに日本へのフレーベル主義受
容過程の日本側と外国文献とを比較, 原典を特定
した. また幼稚園政策の変遷をも考察し, 初期幼
稚園への遊戯導入も考察した. 同書第6章で「幼稚
園保育及設備規定」以前は運動遊戯のみを示す用
語が未定着とし「遊戯」を用いた.
- 11) 拙稿 (1991. 10) 草創期幼稚園における唱歌遊戯
[1] —民草の身体活動とその変遷—. 新潟大学教
育学部紀要, 33 (1) 人文社会科学編: 1-11.
- 12) 佐藤秀夫編 (1981) 明治前期文部省刊行誌集成,
全10巻. 歴史文献, 所収による.
- 13) 田中不二麿 (1873) 理事功程, 文部省.
- 14) 田中不二麿 (1907) 教育瑣談. 副島八十六編
(1970)『開国五十年史』上巻, 原書房 (明治百年
史叢書) 同前発行所.
- 15) 田中不二麿 (1877. 1) 米国百年期博覧会教育報
告, 文部省 (国会図書館所蔵).
- 16) 山住正己・中江和恵編注 (1976. 2) 子育ての書.
平凡社:東京.
- 17) 喜多村信節 (1830 = 文政13) 嬉遊笑覧. 日本随
筆大成編輯部 (1979) 復刻版. 吉川弘文館:東京.
- 18) 喜多川守貞 (1837 = 天保8) 守貞謄稿. 朝倉次彦.
柏川修一編 (1992) 復刻版. 東京堂出版:東京.
- 19) 上笙一郎編 (1997. 4) 日本<子どもの歴史>叢
書. 久山社:東京. 北尾重政 (1819) 江都二色,
239. に「ひんのよいみやけもの^{あたへ}とて手あそひの馬
の^{あたへ}をとうとうときく」とあり, ここでは「手あ
そひ」である.
- 20) 上笙一郎編 (1992. 6) 江戸期の童話研究. 久山
社:東京. 瑞鳥園齋守翁士 (加茂規清)「雛廼宇計
木」の「自序瑞鳥園齋守翁士述」, 43中に「小兒を
劫す怪談に陥て世の中の手遊と為は, 如何にも口
惜しき義ならん歟.」また「猿蟹合戦之弁」, 90に
「於是, 幼童の手遊に^ス為る白を借り太郎に^ス応ずる杵は,
己の修行に符ふ所なり.」, 「浦島太郎之弁」, 97に
「当時赤本ト号シテ, 小兒ノ手遊ト^ス為本ノ中ニハ,

- 作モ最モ古シ。」等に加え、童話長編（翻刻文）、227に「ミづからのわらハ遊びを又見るこゝちするもをかしければ、ほこりをはらひてわかうどゞもにあたふ。安政四丁巳年六月 葎居老人」の後書きがある。
- 21) 同上III附録 金田芳水著（1927）桃太郎の研究、238。
- 22) 唐澤富太郎（1968. 9）図説 明治百年の児童史。講談社：東京。「女子遊戯寿語録」は明治40年刊。
- 23) 野中由美子（2005. 5. 22体育史専門分科会 春の定例研究集会（広島））『体操図解』と明治初期東京師範学校の体操実践。明治初期の小学校体操科の実践に関し、明治8年刊『度会師範学校小学教導図解』に「児童遊戯ノ図」、明治7年天野皎『体操図解』に「遊戯」用語が掲げられている事を発表した。
- 24) 土井忠生（1992）時代別国語辞典、上代編及び（2001）同室町編、三省堂：東京。
- 25) 諸橋轍次・鎌田 正・米山寅太郎（1982. 2初版）廣漢和辞典、大修館書店、初版11刷（1994. 11）。①にアふざける イ興じあそぶ 戯、嬉也。ウもてあそぶを含む⑤はた⑥武器⑦つきる等。
- 26) 増田靖弘（1989）日本の遊び観。日本レクリエーション協会監修 遊びの大事典。東京書籍：東京。
- 27) 小寺玉晃（1831＝天保2（号を讀學舎1800-78））兒戯 尾張童遊集。
- 28) 24) に同じ。金田芳水、江戸期の童話研究 III附録、238。
- 29) 20), 子育ての書「第十六 児垂髪（こさげ）の法儀（はふぎ）の事」, 61. の叙述。
- 30) 同上、上杉鷹山（1796＝寛政8）蒙幼訓、115。藩主世子と決まった先々代藩主孫を慈育した書。
- 20), 子育ての書、参照。以下同じ。
- 31) 同上、山鹿素行（1656＝明暦2）武教小学、135。34歳の時門弟が編集。
- 32) 同上、山鹿素行（1663＝寛文3—65＝同5）山家語類、164。女子をおし訓う「佚楽遊戯（えつらくゆうぎ）に由りて」。
- 33) 同上、中江藤樹（1647＝正保4）鑑草、204。藤樹40歳の時に出版されたとある。
- 34) 同上、稲葉迂斎（1736＝元文元）幼君補佐の心得、98, 100。迂斎53歳の作とある。
- 35) 同上、香月牛山（1703＝元禄16秋）小兒必要養育草、357。江戸中期の医者（いしや）の作。
- 36) 半澤敏郎著（1980）童遊び文化史。東京書籍：東京。
- 37) 18), 教育瑣談, pp. 706-707。
- 38) (1873. 10. 4) 文部省報告, 16 : 23。
- 39) 佐藤秀夫・中村紀久二編（1986. 10. 1）文部省掛図総覧2, 幼童家庭教育用絵畫, 復刻版。東京書籍：東京, pp. 98-99。画は浮世絵師である曜齋國輝写とあり、二代目歌川国輝のこと。中村によれば、1874（明治7）。12. 15没とされ、亀戸宝蓮寺に墓が現存するとあるので、1873—1874. 12間に描かれたことになる。「毎日教授は朝九時より始り十二時に終り中食（なかじき）をして又午後二時より五時迄（ごじ）を限とす稽古中ハ最も厳しく或ハ脇見（わきみ）をし言語（ご）をするものゝ如きも皆夫々の罰（ばつ）を與ふ然れども其間には休の時間ありて 必ず遊園（ゆうえん）を設け花木を植流川（りゅうせん）を引キ築山（きつきやま）を拵（とが）らへ 遊戯（ゆうぎ）奔走（ほんそう）の地とす休の間は皆ここに出て或ハ綱渡り（つなわた）或ハブランコ（はらんこ）或いは輪（りん）を廻し鞠（まり）を投げ四肢（し）を運動（うんどう）し身体を健康（けんこう）にす是をジムナスチック（じむなすちっく）といふ 又此遊びを教ふる先生ありて子供にハかならずこれをなさしむ故に苦學（くがく）すといへども其身健康なり現今ハ大抵此法（せいほう）を用ゐれども往古の讀書人（とくしょじん）は只勉強（べんきやう）するのみを知て養生（ようじやう）をせざるゆえ大抵身体脆弱（からだひよわ）にして勇なく無用の人となれり」と図中にある。
- 40) (1873. 9. 24) 童蒙教訓図、公文録、文部省之部。
- 41) 田中はこの明治6年12月には文部少輔、翌明治7年9月に文部大輔に就任する。
- 42) 「編第十一号 兼テ上申申致置候幼童開諭之錦絵五拾三種續刻ニ付致送呈候也明治七年三月十日 文部大丞 史官 御中 錦晝歴史課へ附ス」。公文録、文部省之部。
- 43) 前掲（1875. 1）理事功程、卷九 七丁。（1873. 12）同、卷三には英国龍動（ロンドン：筆者注）で1818年に設立された幼稚学校を紹介しているが、それは託児所（たくしよ）的性格であり、岡田¹⁾の指摘通り詳細な記述はない。同論文中、岡田は卷三に仏国の幼稚学校の紹介があるとしているが、（1873. 5）同、卷七の誤記であろう。
- 44) 同上（1873. 9）理事功程、卷十五「噓國（デンマーク、噓馬國とも：筆者注）首府哥本哈干（コペンハーゲン：筆者注）公學校略規」五十四丁。「乙受業時間規則」、五十五丁。「丙放課時間規則」。
- 45) (1875（明治8）。7. 7）學第千三百七十一号幼稚園開設之儀伺。公文録。文部省之部。

- 46) 「幼稚園開設費用概算高取調之儀御照會之趣被領承候右ハ凡金五千圓之見込ニ有之候 此段及回報候也 明治八年七月十八日 文部省学務課長 内務課長高崎権大内史殿」. 公文録, 文部省之部. 並びに「明治八年七月二十九日全三十一日決 大臣 内務 財務課長 参議 本課長 七月三十一日成別紙 文部省伺幼稚園開設之議幼女子撫育就學誘導ノ階梯ニシテ必要之儀ニハ可有之候ヘ共方今国費多端ノ際 是ラハ急中ノ不急ニ属シ候儀ニ付先御許可不相成方ト存候間左之通御指令相成可然哉仰高裁候也御指令案伺之趣難聞届候事 明治八年八月二日」. 公文録, 文部省之部.
- 47) 「學校資本金之儀ニ付具陳 學校之儀者逐次官助ヲ免レ多年獨立之實ヲ得候様可致儀ニ有之就テハ當省直轄各學校ニ於テモ寄附献金等各種之資金収集相成一時経費之贏餘ヲ存候節ハ空シク之ヲ藏置セズ公債証書其他確實之證券ヲ獲テ之ヲ貸付スル等漸ク其資本ヲ殖成シテ将来學校維持之目途ニ背カサル様處分可致候條此旨豫メ及具陳候也 明治八年 七月三十一日 文部大輔田中不二麿 太政大臣三条實美殿」. 公文録, 文部省之部. 全国の小学校へ官助が不要となっており, 省直轄校も寄付等余剰金がある. これを藏置せずに証券貸付等に運用し, 将来学校維持等に活用するとした. 幼稚園開設のために余剰金を使うとした.
- 48) 「大藏省 別紙文部省伺幼稚園開設之儀朱書之通及指令候條此旨相達候事 明治八年九月十三日太政大臣三条實美」. 公文録, 文部省之部.
- 49) (1875. 8. 25) 幼稚園開設之儀再應伺. 公文録, 文部省之部.
- 50) (1876. 2. 12) 明治八年十一月二十九日東京女子師範學校開業ノ手續. 文部省雑誌, 3: 346.
- 51) 18) の教育瑣談, 727-728.
- 52) 同上, 734.
- 53) 中村正直訳稿 (1876. 5) トウアイ氏幼稚園論ノ概旨. 教育雑誌, 4. 及び同中村正直訳稿フレーベル氏幼稚園論ノ概旨. 4) の小川澄江論文に詳しい. 江木高遠訳 (1877) 教育トハ何ヲ謂フ歟ノ問. 教育雑誌, 24. 及び海老名晋訳 (1878) 米国新英倫教育新誌抄 遊戲ノ性質ヲ論ズキルセム, チイ, ハルス氏ノ説. 教育雑誌, 58. 等がこれらにあたり, いずれも「遊戲」を多用している.
- 54) 田中不二麿 (1877. 1) 米国百年期博覧会教育報告一, 二, 文部省. 序において田中は同行者を連記した後, 「建国百年期博覧會ニ臨ミ専ラ教育ニ關涉スルノ事項ヲ討究セリ既ニシテ教育報告ノ撰成リ以テ世ニ公示スルノ期ニ遭ヘリ今ヤ宇内教育ノ旺興スル其蔚然トシテ觀ルヘキノ景象ハ適ニ談場搜攬ノ下ニ存セリ豈社會ノ心目ヲシテ開豁ナラシムルノ盛挙ト謂ハサル可ンヤ抑意ヲ教育ニ留ムルノ諸君斯編記スル所ニ就テ一遮眼ニ付スルアラハ曾テ其境ヲ躬歴セサルモ亦以テ弘觀ノ具ニ供スルニ足ラン乎明治十年一月」と報告を意味づけた.
- 55) 同上, 卷二. 目次に幼稚園○フローベル氏法幼稚園○米国法幼稚園○幼稚園略論.
- 56) 桑田信五 (1878. 6) 幼稚園, 下巻, 文部省, 43. (岡田正章監修 (1977.3) 明治保育文献集 1, 日本らいぶらり発行) 「手引草の歌, 第一 鴿舎ノ歌, 第二 陸マシキ家ノ歌, 第三 楽キ景色ノ歌, 第四 穴兎ノ歌, 第五 杜鵑ノ歌 (中略) 第九 風車ノ歌, 第十 水車ノ歌 (中略) 第三十一 (各種の遊戲を為す際或ハ一の課業から他の課業に転するとき謡ふなり) 校飯島半十郎」と記載. 興味深いのは最後の第31番で「遊戲」を用い, 読み仮名は遊戯とある. また第1番で「歌ヒ且舞フハ極テ難シ」と記した.
- 57) Joh. and Bertha Ronge (1858) 幼稚園手引き書 2 (1994復刻本), 62. 10) の『日本幼稚園成立史』の中で湯川は第3版及び第10版と桑田信五『幼稚園』, 56. 「音楽の體操の事」を比較した. 筆者が掲げる第2版は第3版とは題名が下線の様に異なる. A Practical Guide to the English Kindergarten (Children's Garden), for the use of Mothers, Nursery Governesses, and Infant Teachers; Froebel's System of Infant Traininng, Accompanied by a Great Variety of Instructive and Amusing Games, and Industrial and Gymnastic Exercises, also Numerous Songs, Set to Music_and Arranged to the Exercises. つまり Nursery Governesses 保姆兼家庭教師, とある保姆, すなわち保育的用語を次版から除いたことがわかる. 第2版は『母親と保姆兼家庭教師及び幼児学校教師のための英語幼稚園 (幼児の園) の実際的手引き〜幼児練習についてのフレーベル法の紹介, 並びに優れた種々の教育的且つ楽しいゲーム, 労働的・体操的練習及び練習用に合わせて整えられた多くの楽譜付き歌』であった.
- 58) 55) の「米国法幼稚園」二十九丁. の紹介 (一部) を以下 (下線原文のまま) に記す. 「コー女

(中略) 熱心ヨリ若干ノ金額ヲ費シ毎朝九時ヨリ自カラ米園幼稚園法ヲ講述シ兒女ヲ集メテ実地教授ノ法ヲ示シ其教育ニ意ヲ用フルノ深切ナル感スルニ余リアリコー女ノ説ニ幼稚園玩具 (中略) 折衷シテ米園ニ適宜ナラシメ又教科ノ範圍ヲ拡充シ (中略) 他日學術ノ助ケトスルモ敢テ小兒ノ精神ヲ疲労セシムルノ患無シト但シ幼稚園玩具ノ用法ニ至テハフローベル氏法ト其順序ヲ異ニスルノミニシテ之ヲ要スルニコー女カ教法ハ幼稚園生徒ニ精神ヲ練磨スル教科ヲ授クルモ害無シトスルニ過キス今日幼稚園ノ首唱家ハコー女ノ教法ヲ可トセサルモノ多シト雖モ教育部審査官コー女ノ教法ニ第一等ノ賞牌ヲ与ヘタルヲ考フレハ妄リニ米園幼稚園法ヲ以テ不可ナリト為スコカラス」, コーに対するビーボディの批判は前掲湯川 (2001) 日本幼稚園成立史の研究, 第4章注に詳しい。故伊澤先生記念事業會編纂委員編 (1919) 楽石伊澤修二先生, 38. によれば同博覽會で伊澤はメーソンと共に「一ットヤー」の楽譜を出品し日本音楽を紹介したことにより銅牌を授与された。

59) 54) の田中不二磨 (1877.1) 幼稚園略論, 三十一丁。

60) 9) の勝山 (1986) フレーベルの運動遊戯論に関する一考察。勝山は運動遊戯の第一の課題として

四肢, 感覺, 身体等外面的諸力及び直観, 經驗, 思索的精神等内面的諸力を訓練することと記している。

61) (1877. 12. 25) 教育雑誌, 52: 18-23. 明治十年十一月二十七日 皇太后宮 皇后宮東京女子師範學校附属幼稚園行啓記事。に掲載されている。

62) 18) の教育瑣談, 703. 「蓋し模倣は發達の跬歩なり, 既に之を模倣し, 次ぐに改善を以てし, 次ぐに獨創を以てするは, 開明の順序にして, 我國の今日ある亦此に外ならず。」と田中は記した。事実, 遊戯「風車」は「運動遊戯B表現遊戯 (Darstellungsspiel) (2) 水車遊び」(小原国芳・莊司雅子監修 (1981) フレーベル全集IV, 玉川大学出版部, 14: 407-410.) と同内容であり, 獨創ではない。筆者が単なる模倣ではなく, 「改善」に当たると考えたのは, 見聞記にある「杜鵑」を取り扱ったのではないこと。また拙論¹¹⁾で明らかにしたように「風車」の歌を模倣するのではなく, 東京女子師範學校附属幼稚園では, 監事関信三が直訳した歌詞内容を保姆豊田英雄が歌詞らしく整え, 式部寮雅楽課に依頼して曲を調整し, 幼児が風車になったつもりで歌いながら踊った事による。

(平成17年 7 月29日受付)
(平成18年 4 月22日受理)